

# 令和4年度学校研究

## ○研究主題・副主題

「対話を通して、思いや考えを表現できる児童の育成」

～児童主体の授業を目指して～

## ○めざす児童像

- ・根拠を明確にしながらか、自分の考えを相手に表現できる子
- ・自分と比較しながら、友達の考えを受け止められる子
- ・友達と協力しながら課題解決に取り組める子

## ○研究の重点と内容

### 研究の重点

#### ○思考を表現し合う場の充実（深める対話）

- ①良い聞き方・話し方・学び合い方の学習規律を徹底する。
- ②考えを形成する過程を重視し、アウトプットの時間を設定する。
- ③児童の発話量を増やし、児童主体型の授業展開を推進する。

#### ○学びを自覚できる終末

- ①タイムマネジメントを見直し、適用問題やふり返りに取り組む時間を確保する。
- ②適用問題を設定することによって、確実な学習内容の定着を図る。
- ③日常的なふり返りによって、自分の思考を記述することに慣れさせる。

## （1）押水第一小授業スタイル

### ○押水第一小授業スタイルと具体的な共通実践（学力向上プラン）

#### 導入 児童の主体性を引き出す

（・問題提示の工夫 ・児童とともに課題設定）

#### 展開 思考を表現し合う場を充実させる★重点

（・協働学習の進め方を共有 ・ICTを活用した協働学習）

#### 終末 毎時の学びを自覚し、定着させる★重点

（・適用問題による確かな学力の定着 ・ふり返りの日常化）

### ○押水第一小授業スタイルの実態把握

- ・ちょこっと参観（相互授業参観）年3回
- ・研究授業（事前の模擬授業も含む）

## 押水第一小授業スタイル(5教科版)

		内容	留意点
導入	スタート	チャイムとともに号令 前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な学習道具を準備しているか確認する。</li> <li>既習内容は、必要に応じて板書する。</li> </ul>
	つかむ	<b>A</b> 問題提示  <b>B</b> 問題把握  <b>C</b> 課題づくり	←児童の主体性を高めるよう工夫する。 ・身近なものを題材にする、問題の続きを予想するなど  ←題意を読み取らせる。 ・問題状況をイメージさせる。 ・聞かれていることに注目させる。  ←子どもとともに思考課題を設定する。 ・前時の学習との違いに注目させる。 ・「どうして」「どんな」「どのように」など
展開	考える 学び合う 深める	<b>A</b> 見通し  <b>B</b> 自力解決  <b>C</b> 考えの交流★  <b>D</b> 全体交流★	←課題解決の見通しを持たせる。 ・課題解決の手順やヒントを児童から引き出したり、答えを予想させたりする。  ←思考時間を確保し、自力解決の場面を設ける。 ・思考時間の目安は低3分・中2分30秒・高2分 ・根拠（図・叙述・経験など）をもとにして、自分の考えが持てるように指導する。  ←学習形態を選択し、考えを交流させる。 ・課題解決に適した学習形態（ペア・グループ・自由交流）を設定する。 ・話し合うことを明確にさせてから、話し合いを始めさせる。 ・意見交流の時間の目安は低7分・中5分・高3分  ←聞き手を意識させながら、全体で考えを交流させる。 ・聞き方・話し方の学習規律を徹底させる。 ・思考をゆさぶる発問を通して、深い学びへと向かわせる。
		一番深めたい場面での対話 ・深めの発問をどうするのか。 ・何のために、どのような対話を取り入れるか。 ・どのような形態（グループ・全体など）で、どんなツールを使って考えを共有するのか。 <span style="float: right;">などを明確にして対話を取り入れる。</span>	
終末	まとめる ふりかえる	<b>A</b> まとめ  <b>B</b> 適用問題  <b>C</b> ふり返り	←板書のキーワードを使って本時の学習を自分の言葉でまとめさせる。  ←ねらいに即した適用問題に取り組ませる。 ・学力調査問題等の活用  ←ふり返りを通して、学びの自覚・変容をつかませる。

## 押水第一小授業スタイル(道徳版)

		内容	留意点
導入	スタート	チャイムとともに号令	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な学習道具を準備しているか確認する。</li> </ul>
	つかむ	<b>A</b> 主題設定  <b>B</b> 資料との出会い	←本時の主題について、児童と確認する。 ・主題に対する児童の意識を聞いたり、経験を想起させたりしながら、主題設定へと向かう。 ←登場人物や設定を確認しながら、資料を範読する。 ・あらすじを整理しながら、範読する。 ・印象に残った場面について交流させたり、資料内の出来事と似た経験がないか問いかけたりする。
展開	深める 学び合う 考える	<b>A</b> 登場人物の心情  <b>B</b> 中心発問  <b>C</b> 全体交流	←資料に登場する人物の心情について考えさせる。 ・資料内の出来事について、登場人物と自分を重ね合わせながら、考えさせる。 ・教師は、児童から出された考えを色分けしたり、分類したりしながら班書していく。 ・思考をゆさぶる発問を投げかけ、資料内の出来事と自身の生活とを結びつけさせる ←主題に迫る中心発問を投げかけ、考えさせる。 ・中心発問は、主題に迫る内容を設定する。 ・考えを交流させる前に、どの児童も考えが持てるよう、一人で考える時間を十分に設定する。 ・考えを交流させる際には、交流に適した学習形態（ペア・グループ・自由交流）を設定する。 ←聞き手を意識させながら、全体で考えを交流させる。 ・聞き方・話し方の学習規律を徹底させる。 ・考えや意見を伝え合った後で、主題に対する自分なりの答えをノートに書かせる。
終末	ふりかえる	<b>A</b> 道徳的価値の実践に向けて  <b>B</b> ふり返り	←本時で学んだ道徳的価値の実践に向けて、意欲の向上を図る。 ・教師やG Tの体験談を伝えたり、映像を視聴させたりすることで、児童の道徳的価値に対する意識を高めさせる。 ・ねらいとする道徳的価値の押し付けにならないよう留意する。 ←ふり返りを通して、学びの自覚・変容をつかませる。 ・ふり返りの視点を与えて、本時の学びをノートに書かせる。

## (2) 児童の表現力の向上（学びの土台作り）

### ○相手意識をもった話し方・聞き方の徹底

- ・聞き手の方に体を向けて話す・図や資料を指し示しながら説明する
- ・話し手の方に体を向けうなずきながら聞く・納得したり疑問に思ったりしたことを反応で示す

### ○発表意欲の向上

- ・ペアやグループチャットで、全員が考えを表出する場を設ける
- ・考えを伝え合うことが当たり前になる雰囲気作り

### ○授業での発表・表現の場の充実

- ・少人数学級の利点を生かして、一人一人の発表機会を増やす
- ・資料や図を使って分かりやすく説明

### ○全体での発表・表現の場の充実

- ・学校行事（全校集会での生活目標のふり返し、音楽集会、卒業式など）
- ・児童会活動（児童集会、学年発表、6年生を送る会など）
- ・異学年交流（遠足、体験学習、アサギマダラマーキングなど）
- ・地域の方との交流学习（あじさい交流会、昔遊び交流会、ボランティアさんとの茶話会など）
- ・ランチルームでの委員会からのお知らせ



※ 資料を指し示して考えを説明